

平成30年度第2回三重県工業研究所
研究評価（事前・事後評価）委員会の概要

1 事後評価の課題と評価結果

下記の研究課題について事後評価を行いました。評価結果は下表の通りです。

【研究（事業）課題】

課題1 微生物による高機能アミノ酸誘導体の生産技術開発【食と医薬品研究課】

課題2 食と陶の高付加価値化商品開発支援

【窯業研究室、（食と医薬品研究課、プロジェクト研究課）】

課題3 アルミダイカストの鑄巣欠陥評価技術開発【金属研究室】

【評価結果】

各課題の評価結果（カッコ内の数字は評価委員数）

課題	各項目の評価結果【※】				
	目標達成度	技術の発展性	移転・普及性	今後の方向	コメント集約
1	B(4)	1(2) 2(2)	1(1) 2(1) 3(2)	2(4)	いろいろな分野に適用できる可能性があり、分野を決めて具体的に実施されるとよい。特性を網羅的に整理し、引き続き、研究会で情報提供していくとよい。1つの分野での確実なアプリケーション開発を今後取り組んではどうか。開発した誘導体を利用した新商品の実現に向けた検討が望まれる。
2	B(3) C(1)	1(1) 2(3)	2(4)	1(1) 2(3)	技術的にはほぼ完成している。各項目の課題は明確で、商品開発の可能性がみられる。パッケージがもっと良くなるとよい。売れる商品とするには技術者主導でなく、流通やマーケティングを主とするようにした方がよいのではないか。ドライフルーツの特性をパッケージや販路を工夫し、高付加価値商品の開発に活かしてほしい。
3	B(4)	1(3) 2(1)	1(3) 2(1)	2(4)	原因をつきとめる技術はほぼ目標通り。対策をどのようにするかにつなげられるとよい。制御条件パラメータとともにデータを蓄積し、県内企業の展開に努めてほしい。鑄巣欠陥検査法に加えて、鑄巣が発生しないための改善手法も含めた手引書的な資料の作成と企業への公開が望まれる。具体的には企業との共同研究で進めてほしい。

※各項目の評価基準

（目標達成度）

A：目標以上、B：ほぼ目標通り、C：一部不十分、D：不十分

（技術の発展性）

1：全体として発展性有り 2：一部発展性有り 3：発展性は少ない

（移転・普及性）

1：技術移転の可能性有り 2：製品化・普及への具体性有り 3：情報として有効

（今後の方向）

1：新規課題で未完成技術の開発を図る 2：未達成課題を継続して完成を図る

3：課題を終了する

2 事前評価の課題と評価結果

下記の新規課題について事前評価を行いました。評価結果は下表の通りです。

【新規研究課題】

課題1 砂型積層造形を活用した革新的鋳造プロセスの開発【金属研究室】

課題2 陶磁器新商品開発支援【窯業研究室】

課題3 食品・医薬品製造における物性制御技術開発
【食と医薬品研究課、(プロジェクト研究課)】

【評価結果】

5つの評価項目を設け、5段階（5点：かなり高い、4点：やや高い、3点：普通、2点：やや低い、1点：かなり低い）の評価を受けました。

課題	各項目の評価結果					全項目 (25点満点)
	研究の必要 ・有効性	目的・目標の 明確性	研究内容の 妥当性	新規・先進性	期待される 成果	
1	4.5	4.5	3.8	4.3	4.0	21.0
2	4.0	3.0	3.3	4.0	3.3	17.5
3	4.0	3.5	3.8	3.3	3.8	18.3

*表中の数字は、研究評価委員4名の平均値